

第4章

協働による取組み



市が市民（市民団体等）・事業者と協働して行った
環境への取組みの実績等を記載しています。

多摩市の環境づくりを進めていく上で、“市民、事業者、行政の協働”（みんなの協力）も重要です。そのためには、市民（子どもを含む）、事業者、行政がそれぞれの役割を認識し実践するとともに、相互のパートナーシップを築いていくことが欠かせません。

1. 協働による環境への取組み実績

令和元年度は次の300以上の団体等と協働して、環境保全・環境美化・ごみ減量活動等を実施し、延べ約12,000人の参加がありました。

実施日	取組名	参加者等	主催等	内容
4月1日～ 3月31日	アダプト制度による 公園施設等の管理	47団体 40公園	諸団体	各市民団体が公園施設等の身近な公共空間の美化及び清掃活動を行うことで、環境に対する市民意識の高揚が図られ、協働によるまちづくりを推進した。
4月1日～ 3月31日	グリーンボランティア	市と協定を結ぶ 12の市民団体に 加入している 市民等12公園・ 緑地等	諸団体	市とのパートナーシップのもと、公園、緑地等について自主的に維持管理を行うことで、みどりの保全、育成及び創出が図れた。
4月1日～ 3月31日	公園愛護会による 公園清掃	52団体 82公園	諸団体	地域住民・自治会・老人会等により組織された団体が、主に街区公園を対象として清掃を実施し、公園の愛護意識の向上が図れた。
4月1日～ 3月31日	鶴牧西公園 果樹の谷管理	4団体 1公園	諸団体	市民の手による果樹園の維持管理と自然を理解し親しむための活動を通して、人々のふれあいの場ができ、収穫の喜びを分かち合えた。

実施日	取組名	参加者等	主催等	内容
4月1日～ 3月31日	転入者ごみ分別 説明窓口	5372人	※エコ・フレンドリー 多摩市	市役所1階ロビーにごみ相談窓口を設置し、転入者や来庁した市民に多摩市の分別ルールに基づくごみの出し方を説明し、ごみ減量・資源化の普及啓発を行った。
4月1日～ 3月31日	リユース食器 貸出事業	67団体 貸出数 22295個	※エコ・フレンドリー 多摩市	イベントやお祭りで大量に出る使い捨て容器や割りばしの代わりに、繰り返し使えるリユース食器を無料貸出することでごみ減量を推進している。食器の洗浄・殺菌・貸出準備業務や普及啓発を行い、市民のごみ減量意識の向上に努めた。
4月1日～ 3月31日	生ごみリサイクル サポーター事業	登録者数 20人	生ごみリサイクル サポーター 多摩市	市のごみ減量を目的に行政と協働で生ごみの自家処理を普及啓発している。講習会の講師や情報交換会、研修会等を実施した。
4月7日 9月1日 11月17日	一ノ宮用水の 川の生き物調査	調査参加者 延べ34人	よみがえれ、 大栗川を楽しむ会 多摩市水辺の楽校 運営協議会	環境に配慮した一ノ宮用水路の護岸工事の効果を把握するとともに、生物多様性に関するデータを得るために、平成26年度から市民協働による生き物調査を実施している。
4月20日	多摩市水辺の楽校 楽校式	17人	多摩市水辺の楽校 運営協議会	平成22年3月に国土交通省に登録し、市も参画している。さまざまな観察会等を企画しながら子ども達の水辺の自然に親しむ機会と体験を増やしている。

※・・・協働指定委託事業受託者

実施日	取組名	参加者等	主催等	内容
5月24日 5月25日 5月27日	「まち美化キャンペーン ～ごみゼロデー～」	391人	多摩市まち美化 推進協議会 廃棄物減量等推進員 多摩市	5月30日の「ごみゼロデー」 に合わせて、ごみの散乱防 止・減量啓発のキャンペーン を市内4駅で実施した。平成 26年度から環境施策の効果 的・効率的な推進を目的に、 ごみ対策課と合同で実施。
5月30日 11月17日 1月25日	生ごみリサイクル 講習会	14人	生ごみリサイクル サポーター 多摩市	各種生ごみ処理機器を使用し た生ごみ堆肥の作り方を講 習した。 生ごみの減量と資源化を通じ て、地球にやさしいライフス タイルの普及に努めた。
6月2日	川の生き物 調査・観察会	77人	多摩市環境行事 実行委員会	多摩川と大栗川の合流点付近 で河原の植物や水生生物の観 察等を行うことにより、子ど もだけでなく保護者にも自然 への興味や知識を深めている。
6月2日	全国一斉水質調査	4人	多摩市水辺の楽校 運営協議会	多摩川・大栗川・乞田川の 水質を一斉に調査した。
多摩川カー 体験教室・大 栗川水辺まつ り・乞田川の 恵み（生き物 調査・観察 会）時に実施	安全講習会と川遊び	—	多摩市水辺の楽校 運営協議会	水辺での行事实施時に、川の 安全教育と川遊びを実施し た。

実施日	取組名	参加者等	主催等	内容
6月7日 6月17日 6月27日 11月12日	環境出前教室	4校 321人	たまごみ会議 多摩市	小学校に出向き、小学4年生を中心に、ごみ・資源の分別やゆくえ、処理方法について知り、ごみを減らすための工夫、4Rについて考えるための授業を実施した。
7月～9月	多摩市 身のまわりの 環境地図作品募集	応募者数 469人	多摩市身のまわりの 環境地図作品展 運営委員会	身のまわりの環境についてを、地図として表現することを通じて、環境への興味を深めるとともに、疑問に感じたことなどを調査し、それを地図にするという工夫・学習の楽しさや大変さを体験した。
7月15日	大栗川水辺まつり	雨天中止	【主催】 よみがえれ、 大栗川を楽しむ会 【協力】 多摩市水辺の楽校 運営協議会	大栗川（東寺方小学校付近）で、手作りのイカダに乗りながら、豊かな川の自然に触れ、環境への興味を深めてもらうと共に清掃活動を行う予定であったが雨天中止となった。
7月26日 ～7月28日	多摩川源流体験 サマーキャンプ	28人	多摩市水辺の楽校 運営協議会	山梨県小菅村にて2泊3日のサマーキャンプを行う予定であったが天候不良により1泊2日に変更して行った。1日目は川登りをし、2日目は水干と呼ばれる多摩川の始まりの一滴を見るため笠取山を登り、3日目は農業体験を行う予定であったが、1日目の川登りのみ行った。

実施日	取組名	参加者等	主催等	内容
8月25日	乞田川の恵み (生きもの調査・ 観察会)	45人	多摩市水辺の楽校 運営協議会	乞田川でガサガサを行った。
9月8日 11月10日 12月8日	環境学習セミナー	延べ18人	多摩市民環境会議 多摩市	環境に興味のある方、これから環境活動をしてみたい方などを対象に、全4回シリーズ中第1回・3回・4回でフィールドワークも取り入れて開催した。第2回は雨天中止となった。
9月21日 9月22日	永山フェスティバル	3,007人	【参加】 多摩市まち美化 推進協議会	パネル展示や啓発ティッシュの配布等で、まちの環境美化を呼びかけた。
9月28日 9月29日	多摩川力又一体験 教室	127人	多摩市水辺の楽校 運営協議会	子どもを対象として、多摩川の水辺に親しみながら力又を体験する教室を行った。
10月20日	環境ウォッチング	86人	多摩市環境行事 実行委員会	大谷戸公園キャンプ練習場と都立桜ヶ丘公園内で、自然観察や脱穀体験、クラフト作り等を行った。こうした自然に親しむきっかけを作ることに より、子どもだけでなく保護者にも自然への興味や知識を深めることができた。

実施日	取組名	参加者等	主催等	内容
10月24日 10月25日 10月26日 10月28日	「まち美化キャンペーン ～市民清掃デー～」	246人	多摩市まち美化 推進協議会	11月の「市民清掃デー」の時期近くに合わせて、歩行喫煙をはじめ、吸い殻・空き缶等のポイ捨て行為によるまちの環境悪化を防止するため、多摩市まち美化推進協議会委員や市民・市民団体・事業者・学校等の協力により実施した。具体的には市内4駅周辺での清掃活動や、平成24年10月1日施行の「多摩市まちの環境美化条例」の周知を行った。また、健康推進課とも協働し、多摩市受動喫煙防止条例の制定に向けた喫煙マナーの向上のための周知・啓発活動も実施した。
11月3日	美しい多摩川 フォーラム 「多摩川清掃」参加	台風被害 のため中止	美しい多摩川 フォーラム 事務局 【参加】 多摩市水辺の楽校 運営協議会	美しい多摩川フォーラム主催の「多摩川清掃」（多摩川河川敷の清掃）に参加する予定であったが台風被害のため中止となった。
11月4日	多摩川 クリーンアップ作戦	雨天中止	多摩市水辺の楽校等 多摩市諸団体	多摩川・大栗川周辺の清掃活動を「多摩市青少年問題協議会第一地区委員会」とともに実施する予定であったが雨天中止となった。
作品展 11月29日 ～12月1日 表彰式 12月1日	多摩市身のまわりの環境 地図作品展表彰式	作品展 368人 表彰式 40人	多摩市身のまわりの 環境地図作品展 運営委員会 多摩市 【運営】 ※多摩市民環境会議	優秀賞11作品及び奨励賞9作品を表彰するとともに全作品を展示した（表彰式受賞者19人）。

実施日	取組名	参加者等	主催等	内容
1月18日 1月19日	多摩エコ・フェスタ 2020	1,131人	多摩エコ・フェスタ 2020実行委員会	平成30年度に引続き、実行委員会形式で実施。市内の環境活動グループや小・中学校、大学、企業が連携し、各団体の環境への取組みの紹介やパネルの展示をした。
1月19日	まち美化貢献者・団体 表彰式	19人	多摩市まち美化 推進協議会 多摩市	まち美化に貢献した団体6組を表彰した。
2月2日	冬鳥観察会	11人	多摩市水辺の楽校 運営協議会	多摩川に生息する冬鳥の観察会を行った。

2. 人づくりに向けて

(1) 環境教育の充実

環境を大切にする「心」を育てるためには、子どもの頃から自然や生き物とふれあい、環境を大切にすることを育てていくことが重要です。

多摩市では、持続可能な社会の担い手を育成するため、「2050年の大人づくり」をキャッチフレーズとして、市内の全小・中学校でE S D（Education for Sustainable Development）の取組みを進めています。環境教育はその重要な一躍を担っています。



市内の全ての小・中学校で社会科、理科、家庭科、生活科などの教科学習、あるいは、総合的な学習の時間、「特別な教科 道徳」や特別活動などを通じ、水、土、空気、騒音、ごみ、リサイクル、草花栽培、樹木の保全活動などを取り上げています。

(2) 環境学習の拡充

子どもから大人まで生涯を通じて環境にやさしい行動をする人を育てるため、地域ぐるみで環境について学び、実際に体験するための場や機会を提供していきます。

市内では、グリーンライブセンターやコミュニティセンター、公民館等で、環境に関する学習会等が市民団体などの主催により開催されています。

また、市主催による施設等見学会、環境学習会、自然観察会や環境ウォッチング、農業体験等の体験学習等多彩な取組みも行っています。

さらに、歴史・文化の保全・継承に関しても同様な取組みを進めています。

